

# ナルナル的 菌活書評

## 【林業・里山再生関係者必読！枯木愛に満ちた研究者の関する最高のウンチク研究本】



「枯木（かれき）こそ山の賑わい」  
枯木に棲む虫、枯死木を分解する菌、菌を食べるリス……

樹木が枯れて土に還っても続く彼らの営みから、微生物による木材分解のメカニズム、意思決定ができる菌糸体の

知性、林業や森林整備による林床からの枯木除去が生態系に及ぼす影響、倒木更新と菌類の関係、枯木が地球環境の保全に役立つ仕組みまで、身近なのに意外と知らない枯木の自然誌を、最新の研究を交えて軽快な語り口で紹介する。

※以上が出版社の紹介文

微生物による木材分解メカニズム、菌糸体の意思決定能力、森の枯木不足が生態系に及ぼす影響、枯木が炭素貯留に役立つ仕組みまで。日本全国のアカマツ林を巡り歩いたり、リスの食べ残しを舐めてみたり、探究心旺盛な研究者が身近な枯木の自然誌を解き明かす！

枯れて命を終えた樹木は、それで「終わり」ではない。樹皮の表面や幹の中で動物や昆虫を養い、菌類に分解されたのちは土に還るまでの間も炭素を貯留するなど、森林生態系や地球全体に関わる重要な働きを持っている。

本書は、これまで注目されてこなかった枯木を起点に広がるニッチな世界を、動物・植物・菌類・土壌・地球環境といったさまざまな視点から描いた、森の見方が変わる一冊だ。

著者は東北大学大学院農学研究科助教で、専門は森林生態学、微生物生態学、生物多様性生態学。小学生の頃からコケと変形菌に興味を持ち、長じては大学構内の森で変形菌を探したり、標本を布団乾燥機で乾燥させたり、世界中の研究者に声をかけて6カ国での共同研究を行ったりとバイタリティに溢れた人物で、軽快な語り口で読者を知られざる枯木の世界に誘う。

※以上、アマゾンでの紹介文

小さい頃から自然が大好きだった著者は、いつしか枯木愛に目覚め枯木を取り巻く自然の営みを研究し始める。

木の主成分であるセルロースやリグニンについても褐色腐朽菌・白色腐朽菌について解り易く分解過程を教えてくれる。これまでにない画期的な書籍として私は高評価したい。

	低い	⇄	高い		
難易度	★	★	★	☆	☆
活菌度	★	★	★	★	★
面白さ	★	★	★	★	★
新規性	★	★	★	★	★

書名	枯木ワンダーランド 枯死木がつなぐ虫・菌・動物と森林生態系
著者	深澤遊
出版社	築地書館
発行日	2023/6/27
価格	本体 2,400円+税